みなみたま

会 報「みなみたま」第13号
発　　行　南多摩同窓会あかね会
発 行 者　堀 竹　充
〒192-8562　東京都八王子市明神町 4-20-1
東京都立南多摩中等教育学校内
URL：www.akanekai.org/
Email：mail@akanekai.org

目　次

【会長挨拶】
コロナ禍に思う社会とのつながり（堀竹 充）..... 2
【学校の動向】
御挨拶（永森 比人美）..... 2
コロナ禍でも様々な教育活動を展開する南多摩中等教育学校（三藤 政義）..... 3
南多摩中等教育学校卒業生の進路（徳武 英人）... 5
【新入会員紹介】
南多摩で学んだこと（白須 麻優）..... 6
南多摩での学習（山口 まゆか）..... 6
【いま、伝えたいこと】
バイオインフォマティクスの研究（道下 瑛陽）... 7
好きなことにチャレンジ（菊岡 柊也）..... 7
南多摩に在学する皆さんへ（上林 篤史）..... 8
名古屋市千種区不老町に通い続けて早30年ほど（曽我 雄司）..... 8
【話題の人】
羽村市に初の女性副市長誕生！（井上 務）..... 9
【南多摩の想い出】
南多摩高校の思い出（小林（旧姓 池和田）宏子） 10
高校生の頃（髙取（旧姓 黒田）早苗）..... 11
剣道部と私（大槻（旧姓 小山）洋美）..... 12
【歴史発見】
青天を衝け➡徳川慶喜➡三浦朱門・曽野綾子と第四高女（井上 務）..... 12
地図で見る八王子の地形と歴史（菱山 剛秀）.... 14
【同窓会からのお知らせ】
同窓会の活動及び母校支援について..... 16
令和4年度あかね会総会開催のお知らせ..... 20

コロナ禍に思う社会とのつながり

南多摩同窓会あかね会会長　堀竹　充

現在もオミクロン株の感染の広がりに、終息の様子が見えない日々が続いています。

このような状況の中、協力し合う姿や助け合う姿、コロナ禍に対する新たな取り組みなどについての報道を耳にするたびに、救われた思いがします。

さて、コロナウイルス感染後の世界は、これからどう変化していくのだろうかと、考えることがあります。私達は、社会の変化を受け止め、よりよい状況を求めて対応を工夫していくことに、全力を傾けていくこととなるでしょう。

また、学校における教育も例外ではなく、新たな社会の変化に対応する取り組みについて、生徒にも理解させることがもっと必要になってくると考えます。社会の一員である自分の捉えかたや、変化していく社会にどう向き合うかなどについて、「自分ならどうする」、「自分はどうありたいのか」など、正解のない答えを模索する時間を、十分に提供していく必要性を感じています。

そこで、私は改めて、同窓会が協力していけることが、まだあるのではないかと考えました。

これまでの社会体験の学習などを活用して、卒業生に、職場での体験談として、コロナ禍の中で困ったことや工夫してきたこと、他の職場での話題など、変化に対応していく姿について、是非語って欲しいと願っています。自分にとって身近な存在である卒業生の話なら、これからの自分にもかかわることとして、真剣に考えるきっかけとなるのではないかと思っています。

「何を感じ取ったのか」、「何を学んだのか」。すぐには言葉や態度で表せなくとも、心の片隅に響くものがあれば良いと思います。ふとした場面で、先輩の姿を思い起すことがあることを願います。現場で働く人の体験談は、自らの捉え方や、思いを広げてくれることにもなるでしょう。

これからの社会は、さらに大きく変化していく社会です。コロナ感染の問題だけではなく、環境問題、人口減少、食糧問題、資源問題など、課題は山積みしています。どう対応していけばよいかは、誰かが教えてくれるわけではなく、各自がそれぞれ仲間と共に模索していかざるを得ないでしょう。

生活の在り方も話題にしたいことです。是非、仕事を持つ女性にも話をしていただきたいと強く思っています。仕事と家庭生活の維持の難しさを、子育ての難しさや楽しさを、女性が働く現状や希望を、おおいに語っていただきたいと思います。もちろん、話を聞くのは男子生徒も一緒です。

仕事への取り組み方や仕事の内容の変化、また、女性の働き方などの情報は、テレビ放送やネットなどにあふれています。しかし、名前を知らない花が咲いても気づかないように、関心のない情報は、無いも同然です。

卒業生の皆さんが、これからの社会を築いていく生徒たちに、気付きのきっかけを与え続けていただけることを願っています。

御挨拶

東京都立南多摩中等教育学校 校長　永森 比人美

日頃から本校の教育活動について御理解・御協力をいただき心から御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら教育活動を余儀なくされて３年目を迎えました。生徒の辛抱強さ、保護者の方々の多大なる御協力がなければ、幾度もの感染の波を乗り越えることはできなかったものと思います。この間、令和3年11月には国立感染症研究所センター長や教育技監等の感染症対策の専門家チームの御視察を受け、専門家チームの方々から組織的な本校の感染対策についてお褒めの言葉をいただき、新型コロナ事務局のポスターにも本校の事例が複数紹介されました。まさに養護教諭や本校教職員が心を一つにして感染対策に挑んできた証と大変嬉しく思っております。

こうした状況にも関わらず、生徒の活躍は例年通り素晴らしいものがありました。探究学習の成果をあらゆるコンテストや発表会で英語や日本語で発表しました。部活動についても太鼓部、なぎなた部、南多摩フィルハーモニー部等が関東大会や全国大会に出場し素晴らしい実績を残しました。また、ドイツ公共放送や朝日新聞、読売新聞等メディアに本校の教育活動が取り上げられ、本校の教育内容を広く発信する機会をいただきました。さらに、生徒の活躍としましては、「第11回科学の甲子園東京都大会」で総合３位、都立学校で１位を獲得したことが挙げられます。本校の正門にこの快挙を横断幕にして披露しておりますので御覧ください。

令和４年度は、あかね会の皆様に生徒の活躍を直接御覧いただけたら幸いでございます。一日も早いコロナの収束を願い、皆様と交流がもてる日を心待ちにしております。

コロナ禍でも様々な教育活動を展開する南多摩中等教育学校

南多摩中等教育学校 副校長　三藤 政義

あかね会の皆さま、日頃より本校の教育活動に多大な御支援いただき誠にありがとうございます。

令和３年度において、本校は、新型コロナウイルス感染症対策をさらに強固にしつつ、様々な教育活動を実施して参りました。特筆すべき教育活動の一部を抜粋して紹介します。

１　校内における感染症対策の深化

令和３年度４月から全ての普通教室の黒板の下に、下図のようなCO2測定器を設置して、換気を促進する体制を組んでいます。数値が1000ppmを超えると赤いランプが点灯し、一番前に座っている生徒が「赤ランプが点灯しました！」と注意喚起をすると、生徒の皆さんは「小さな窓開け」から「全開の窓開け」に切り替えて換気します。特にマスクを外して昼食（給食）を取る時間帯は、黙食を徹底するために生徒部の教員が校内放送をして、積極的な換気の指導も行っています。

２　八王子市立第四小学校放課後学習支援

令和３年７月八王子市立第四小学校での放課後学習支援活動を開始しました。以下は、参加した生徒による紹介です。

本日、本校後期課程の生徒（高校生）10 人程が、八王子市立第四小学校の放課後子供教室にボランティアとして参加しました。この事業は、現５年生（高２）の有志で集まったチーム ones が、令和３年２月に行われた八王子市による政策発表会である「高校生によるまちづくり提案発表会」で提言した取組をきっかけにして始めたもので、今日が、実際に児童と触れ合う初めての日となります。

小学生の子供たちが元気に朗らかに私たちと接してくれて、校内で感じることのない新たな刺激を受けました。校庭で遊んだり、教室で勉強を教えたり、幅広く活動を行い、子供たちの他にも第四小学校の副校長先生や学校運営協議会の方々にも沢山の嬉しい言葉をかけていただき、やって良かったと思いました。

なお、この取組は、VIEWnext２月号（ベネッセコーポレーション）に取り上げられました。

３「Tokyoサイエンスフェア」に参加！「科学の甲子園 東京都大会」第３位！

令和３年11月14日「Tokyoサイエンスフェア 第11回科学の甲子園 東京都大会」が都立小石川中等教育学校で開催されました。本校からは、５年生３名、４年生３名の生徒が参加しました。大会は筆記競技と実技競技で競いました。筆記競技は、２時間で物理・化学・生物・地学・数学・情報に関する問題にチーム全員で取り組みました。実技競技は、事前にテーマが公開されていて、与えられたプラスチック製の箱を用いて、中身の構造を工夫し、箱Ａと箱Ｂを制作します。作成したそれぞれの箱を斜面に置き、斜面の角度を大きくしていきます。箱Aは倒れやすさを競い、箱Ｂは倒れにくさを競う競技でした。これまで校内で検討してきた設計図やメモを持ち込んで取り組みました。

11月28日「Tokyoサイエンスフェア 研究発表会及び表彰式」が東京ビッグサイト国際会議場で開催されました。

「科学の甲子園　東京都大会」に出場した４年生２名が参加し、５年生１名がポスター発表（展示）を行いました。会場には64本のポスターが展示され、様々な研究に触れる良い機会となりました。さらに「第11回 科学の甲子園　東京都大会」

の結果が発表され、表彰式もありました。本校は総合成績で第３位（都立学校では第１位）に入賞し、本校に明るいニュースを届けてくれました。

４　全国高校生フォーラム

令和３年12月19日、文部科学省が主催する全国高校生フォーラムがオンラインで開催され、本校の代表生徒（５年生）が「オーガニックコットンの普及と新しい栽培法の取り組みについて」というタイトルで発表しました。

４・５年生のLWP（ライフワークプロジェクト）のテーマとしてオーガニックコットンを選び、コットン栽培に関する研究を行いました。２年間に渡る試行錯誤の末、データを収集することができました。また、世の中でオーガニックコットンへの関心が高まっている段階ですが、より多くの人にオーガニックコットンの価値を知ってもらうための普及活動を提案しています。具体的な取組として、高尾ビジターセンターとのコラボレーションで、自分たちが栽培した綿花を利用し、高尾の動植物を題材としたバッジ作りのワークショップを実践してきました。これらの研究内容を総括し、英語でプレゼンテーションしました。

自分の言葉でしっかりと説明し、アドバイザーの先生方からの英語での質疑に対しても落ち着いて的確に応対するなど、代表生徒として素晴らしい活躍をしました。

５　学校給食飲用牛乳パックのデザインコンテスト表彰式

令和３年12月に東京都教育委員会主催「学校給食飲用牛乳パックデザインコンテスト」の表彰式が、東京都立産業技術研究センターにて実施されました。５月の作品提出、６月のオンラインによる二次審査の結果、本校から応募した５年生３名は最優秀賞１名、優秀賞２名と全員が入賞しました。

今回のコンテストはプラスティックストローを使用せずに飲むことができる牛乳パックのデザインを募集するものでした。本校では２年前から、海洋プラスチック削減の一環として、給食においてストローを使用しない取組を進めてきました。プラスティックストローを使用しない牛乳パックデザインについて、本校のグローバル問題研究会のメンバーを中心に研究してきました。表彰式後、産業技術研究センターの研究員の方が試作した本校生徒の作品を、デザインの特徴やさらに改良すべき点、企業が製品化するにあたっての問題点について入賞者全員で情報交換と議論をしました。生徒たちは製品化するためのさまざまな課題について気付かされると同時に、自分たちの作品が製品化されることにさらにモチベーションを高めていました。

６　PASSOプロジェクト成果発表会

本校とイタリア・レニャーノのデララッカハイスクールの間で令和３年10月から始まったPASSOプロジェクトの成果発表会が、令和４年１月16日（日）と23日（日）の２回に分けて、オンラインで開催されました。PASSOプロジェクトとは、日本とイタリアでの交流を目指したプロジェクトです。このプロジェクトでは６週間にわたって、両校を10チームに分かれてSDGs について学んできました。12月に、各チームに一つのSDGsの目標を割り振り、約１ヶ月かけて発表資料をまとめました。６週間のミーティングは日本のイタリアの時差が7時間あることから毎週日曜日の夕方に行いました。SDGsという高度な内容のミーティングを全て英語によるコミュニケーションで行ったことは、生徒にとって大きく成長できる機会でした。一つのSDGs の目標についての概要説明、日本とイタリアの現状、今後取り組むべき課題という形で双方の生徒が発表を行いました。PASSOプロジェクトは成果発表会で一つの区切りがつきましたが、来年度も実施していく予定です。本校がさらに発展していく契機となる教育活動にしていきたいです。

南多摩中等教育学校卒業生の進路

南多摩中等教育学校 進路指導部主任　徳武 英人

今年卒業の7期生も新型コロナ感染症による臨時休校、分散・時差登校。３大行事・部活動の制限という困難な状況での受験となりました。大学入学共通テストは全員、無事に受験することができました。その後の個別入試で、７期生は国公立大学の前期日程までに50名が合格しました。特に難関国公立大学では東京大学2名、京都大学3名、一橋大学7名、東京工業大学2名、国公立大医学部2名の合計16名が合格し、過去最高の数字となりました。中期（3月8日）後期日程（3月12日）まで粘って受験した生徒も多く、最後の最後までがんばっていました。また北海道大学獣医学部、千葉大学薬学部、東京藝術大学音楽学部など現役生では合格が難しい大学にも合格を果たしました。国公立大学では学校推薦型入試で合格した生徒もいました。お茶の水女子大学、筑波大学人文学類、東京医科歯科大学、東京学芸大学に合格しました。

私立大学では早慶上智・理科大に100名を超える生徒が合格し、良好な結果を残しました。

７期生合格実績　　（2022年3月25日現在）

１　国公立大学（現役のみ）

国公立大学	合格者数
北海道大学	3
東北大学	1
筑波大学	3
埼玉大学	1
千葉大学	4
お茶の水女子大学	1
電気通信大学	1
東京大学	2
東京医科歯科大学	2
東京海洋大学	1
東京藝術大学	1
東京工業大学	2
東京農工大学	3
東京学芸大学	2
一橋大学	7
横浜国立大学	5
富山大学	1
信州大学	2
京都大学	3
広島大学	1
香川大学	1
長崎大学	1
千葉県立保健医療大学	1
東京都立大学	8
静岡県立文化芸術大学	1
大阪公立大学	1
防衛大学校	1
計	60

上記のうち医学部医学科	合格者数
筑波大学	1
信州大学	1

上記のうち獣医学部獣医学科	合格者数
北海道大学	1

上記のうち薬学部	合格者数
千葉大学	1

注）７期生　（現役のみ　卒業生147名）

２　私立大学（現役のみ）

私立大学	合格者数
早稲田大学	36
慶應義塾大学	18
上智大学	22
東京理科大学	27
国際基督教大学	3
明治大学	66
青山学院大学	21
立教大学	36
中央大学	61
法政大学	28
学習院大学	4
成城大学	7
成蹊大学	7
國學院大学	9
明治学院大学	3
武蔵大学	2
芝浦工業大学	11
日本大学	18
東洋大学	23
駒澤大学	4
専修大学	8
津田塾大学	4
東京女子大学	3
日本女子大学	4
東京農業大学	8
工学院大学	3
東京都市大学	1
東海大学	1
多摩美術大学	4
武蔵野美術大学	9
国立音楽大学	1
同志社大学	1
立命館大学	1
私立大学総計※	531

３　短大・海外大学・専門学校（現役のみ）

短大・海外大学・専門学校	合格者数
辻製菓専門学校	1
東京医療学院専門学校	1
日本工学院八王子専門学校	1

合格者数：複数大学の合格者は重複計上

※　掲載大学以外の合格者を含む

新入会員紹介

南多摩で学んだこと

令和４年卒（中等７期生）　白須 麻優

私は中学1年生から５年間、南多摩フィルハーモニー部に所属していました。南多摩フィルハーモニー部では最高学年の５年生が前期・後期合わせて約100人の部員をまとめます。私は１年生の時から、５年生になったら先輩たちのように活動したいと思っていました。

しかし実際に５年生になった時、例年通りに活動を行うことは不可能な状況でした。新型コロナウイルスの影響です。練習時間の制限や緊急事態宣言による部活動の禁止、全国大会の録音での出場など、自分たちの力ではどうにもできない様々なことがありました。これまでの部の伝統的な行事も変えざるをえなくなり、思うように活動できないことが悔しかったです。しかし、そのような状況だったからこそ得られたものもあると私は思っています。それは、「考えて工夫する力」です。どうすれば飛沫感染を防ぎながら練習を安全に行えるか、どうすれば限られた少ない練習時間で演奏のクオリティーをあげるかなどたくさんのことを考えました。そうやって考え、工夫し、実践してみると、思っていた以上に良い結果が得られることに気づきました。部活動の経験を通して、困難に直面した時にあきらめてしまうのではなく、解決策を前向きに考えることができるように私自身が変われたと思います。また同時に、他人と協力し合う大切さも学びました。部活動の中で問題について同級生と話し合うと、一人で考えるよりも優れた解決策が見つかりました。今後も他人の意見を聞き、多角的な視点から考える重要性を忘れないようにしたいです。

部活動だけではなく、行事や日々の授業などを通しても私は多くのことを学びました。その他にも南多摩で過ごした６年間の中には辛かったことや楽しかったことなど、数えきれない思い出があります。その様々な場面で、多くの人々に支えられてきました。あかね会の先輩方には、学習・部活動などでたくさんのご支援をいただき、感謝しております。

４月から私は大学に進学します。思い出の詰まった南多摩から卒業する寂しさと同時に新天地への期待を感じています。これから先の人生で大変なことも多いと思いますが、南多摩で学んだことを生かし、頑張っていきたいです。

南多摩での学習

令和４年卒（中等７期生）　山口 まゆか

私は南多摩で行事に熱心に取り組み、太鼓部の活動に励んで大変充実した学校生活を送りました。学習塾に行かず進路を決定できた理由として三つのことを挙げたいと思います。

一つ目は学校で出された課題です。自分からやろうと思わなければ勉強せずに済んでしまう状況の中、学校から課題が定期的に出されたことで学習習慣をつけることができました。当時はあまりに大量の課題に心が折れそうになりましたが、今思えばそのおかげで学習したことを定着させることができたのだと思います。また、長期休業中の課題も学習した内容を思い出し、復習するために非常に役に立ちました。

二つ目は先生方のサポートです。先生方の授業は明瞭で、板書やプリント等、理解を促す様々な配慮もしてくださいました。また、授業後や放課後に質問に答えてくださったり、受験の面接練習や解答の添削を快く引き受けてくださったりもしました。さらに、朝学習や授業中の小テストにより、定期的に知識を出し入れする習慣が身につきました。

三つ目は友人や家族、あかね会による支援です。友人たちと勉強する中でわからない箇所を教わり、逆に自分の得意分野を教えることでより効率的な学習を行うことができました。共に励まし合い、勉強することは学習意欲の向上につながりました。また、コロナ禍にあっても集中して学習できたのは家族の支えがあったからです。そして、私の学校生活や進路決定を大いに支えてくれたのが、あかね会です。部活動の備品や合宿等の支援により充実した学校生活を送れたことや、「先輩に学ぶ」の講演が大変参考になったことが、進路実現につながりました。

このように私は多くの方々に支えて頂きながら努力を続け、自分の道を進むことができています。皆様に感謝し、その恩に報いるべく今後も精進していきます。

いま、伝えたいこと

バイオインフォマティクスの研究

平成 30 年卒業(中等３期生)　道下 瑛陽

H30 卒（中等３期生）の道下と申します。現在私はバイオインフォマティクス（生命情報科学）を研究している修士課程１年です。この度の「後輩に伝えたいこと」という特集に際して、私からはバイオインフォマティクスがどんなものなのか、研究をしていてどんなことを感じたのか、ということをお話しできたらと思います。

バイオインフォマティクスは文字通り、バイオ（生命）をインフォ（情報）の技術で研究する学問です。具体的な対象は幅広く、イメージしやすいところですとゲノム情報の解析やタンパク質の構造の予測、土壌や腸内の細菌の働きの解明、生命の進化の探究などがあります。昨今の SARS-CoV-2 による COVID-19 の流行においてもバイオインフォマティクスはさまざまな役割を果たしていて、SARS-CoV-2 の構造解析、mRNA ワクチンの開発、感染者数の予測（SIR モデル等）などが取り組まれています。

研究活動で楽しいことの一つに、勉強をすればするほど、最新の研究の「面白さ」を感じ取れるようになることがあります。この「面白さ」とともに、今まで勉強していた英語、数学、生物など、単なる知識・技術だったものの意味を理解できることも楽しさの一つだと感じています。例えば、高校生で学ぶ微分はただの計算でしかないと思いますが、微分を用いることで感染症の蔓延の予測を行う SIR モデルが構築できます。このモデルがどういうものなのかを知ると、今後の状況を自分で考えることができ、さらに他人の作ったグラフがどういう前提で作られているのか、どんな単純化を行なっているのかと批判的に見ることが可能になると思います。

ここではバイオインフォマティクスを取り上げましたが、どんな分野でも研究を通してこれらの「楽しさ」を感じることができると思います。ぜひ、自分の興味のある分野を見据えて、それに必要になる基礎の勉強をがんばってください。

好きなことにチャレンジ

平成 30 年卒業(中等３期生)　菊岡 柊也

南多摩中等教育学校を卒業して早４年の月日が経ちました。今回『後輩に伝えたい事』というテーマで原稿の依頼を頂いたので近況報告や様々な活動を通して感じたことをお伝えできたらいいなと思います。

現在私は大学院にて半導体デバイスの研究をしており、次世代の量子暗号通信技術として『スピン注入円偏光発生ゲルマニウム LED を搭載した光電子集積シリコン・チップ』の創製を目指しています。大学へ入学する前から修士課程へ進みたいとは思っていたのですが、現在は博士課程への進学も視野に入れながら研究活動をしております。

大学生活で一番力を注いだのは南多摩太鼓部のサポートです。僕が卒業後も太鼓部に関わろうと決めた主な理由は６年間一緒に部活をしてきた後輩の役に立ちたいなと思ったのと、お世話になった学校や先生方に何か恩返しをしたいと思ったからです。創部間もない部活であったため技術の継承や部活全般のシステムに課題点や改善点が多く、また部活の OB・OG も少なかったのでそれらをサポートしたい思いから現在外部指導員として活動させていただいております。

サポートのみならず僕自身もコンサート等で演奏を続けており(南多摩110周年・南多摩中等教育学校創立10周年記念祝賀会でも演奏させていただきました)、この前も音楽の授業でお世話になった講師の栗原先生や卒業生とコンサートを開催いたしました。卒業後も様々な形で先生方や後輩たちと関わることができて大変ありがたいです。

これらの活動から皆さんに伝えたい事は『やりたい事があれば全力で取り組んで欲しい』、そして『人との繋がりを大切にしてほしい』という２点です。皆さんご承知の通り我々の学校は課題が多く、それに加えて行事、委員会、部活と慌ただしい日々を送られているかと思います。そんな環境下でも自分が興味を持っていることや好きなことにはぜひとも全力でチャレンジしてください。課題等と両立させるのはなかなか難しいですがその苦労やチャレンジすることで得られる知識・経験は必ずや皆さんの財産になると思います。

そして多くの作業をこなしていると手一杯になってしまうこともあると思いますが、そんな時はぜひ周りの人を頼ってください。僕は後期生の頃に仕事を一人で抱え込み過ぎてしまい体調を崩してしまった事が何度もありました。きっと皆さんの中にも似たような経験をされた方がいらっしゃるのではないでしょうか。しかし一人でやれる事には限界があるのでそんな時は無理をせず勇気を出して周りに相談し協力を募ってみてください。

人生で二度とない貴重な中学生活、高校生活です。悔いの無いよう目一杯楽しんでください。

学部時代の教科書やレポート、製図道具

南多摩に在学する皆さんへ

平成 29 年卒業 (中等 2 期生)　上林 篤史

あかね会の皆様より特集のお話を頂き、果たして後輩に紹介できる程の活躍が私にあるだろうかと少々恐縮しながら筆を執っています。短い文章ですが、在学生の皆さんの参考になればと思います。

私は南多摩に中等2期生として入学し、2017年3月に卒業後、大学で機械工学を専攻しました。物心ついたころからメカっぽいものが好きで、その延長で特に迷いもせず機械工学科への進学を決めたような気がします。大学では、興味のままに授業や実験、課題、研究に取り組み、また南多摩時代に習慣化された英語学習も継続しました。座学ばかりではなんだということでサークル活動ではモノづくり系のサークルに所属し、仲間と一緒に設計から製作までの一通りを経験しました。その後航空機材料の試験手法に関する研究で卒業論文を書き、卒業時には某学会からちょっとした表彰を受ける程度の学業成績はおさめることが出来ました。大学を卒業した現在では、大学院に進み航空機電動化に関する研究を行っています。

南多摩にいた頃を振り返ると、たくさんの勉強に追われながらも、特色あるカリキュラムと自律した校風の中でとても有意義な時間を過ごしていたように思います。内側にいては中々気づけなかったものですが、南多摩はあまりにも“人”に恵まれた環境でした。そこでは単にお勉強ができるようになったのではなく、優れた仲間や先生方に支えられながら部活動や行事、生徒会活動を通して多くの無形の学びを得、それらは今でも色褪せずに私の一部になっています。

いま在学生の皆さんは日々の学習や部活動に忙殺されているかもしれませんが、時に自分の興味ある物事について考えを巡らし、時に多様な“人”とのかかわりの中に発見を見出し、将来の自分をどうしたいか妄想して、その実現のために自由に行動してほしいと思います。私がそうだったように、南多摩で今のあなたを形作るものは、きっと将来も自分の支えであり続けると思います。

ところで、私が在学していたころ校舎には南多摩中等と南多摩高校が共存していて、校内には両校の教育理念/目標が掲示されていました。中等の理念といえば『心・知・体の調和』ですが、実は私は当時から南高の教育目標が気に入っていました。それは『当事者として世に立とう』であったと記憶しています。当事者として世に立とう。いま広く世の中で活躍する大勢の卒業生はもちろん、南多摩という環境で自身に磨きをかける皆さんのそれぞれが、この社会の当事者で、主役です。主役たるにふさわしい人物であるよう、皆さんも、私も、お互い頑張っていくことにしましょう。

名古屋市千種区不老町に通い続けて早 30 年ほど

平成 5 年卒業　曽我 雄司

同期であかね会幹事の入沢君から、「みなみたま」に近況について書けないかと打診があった。引き受けてしまったので、とりあえず書いてみる。私は名古屋大学に現役で合格し、同大学院の修士課程・博士課程に進学した。その後、名古屋大学教育学部附属中・高等学校に就職、今日に至る。

と、書いたところでメール添付の葉書データを見る。オーダーは「後輩に伝えたいこと」。伝えたいこと･･･？上記の数行を読めば順風満帆で進んできたように見えるが、実はそうでもない。これがまず伝えなくてはならないこと。

日本史が好きで文学部に入学し、大学院へ進学した。しかし「好き」というのと「研究をする」というのは少し違ってくる。歴史を勉強するのは好きだったが、新しいことを見つけ自分の意見を主張するのがあまり得意でないこともあり、大学院で論文を書いていくのは正直辛かった。研究者間の交流というのも性に合っていなかった。また道をあきらめるにしても、文系大学院の就職は圧倒的に不利。高校生の時、大学・学部を考える際にもう少ししっかりと悩み考えておくべきだった。これは後輩の高校生に伝えたいこと。

大学院で（今更だが）進路に悩んだ時、自分を支えたのは附属高校での非常勤講師の仕事と趣味の合唱だった。附属高校の生徒たちは、教員としてやっていけるという自信を与えてくれた。合唱活動を通じて、様々な人々から自分の知らない様々な考え方・世界を学べた。この二つとも、その起点は南高にある。教育実習は南高でお世話になったし、大学で合唱を始めたきっかけのひとつは南高の合唱祭だ。高校での経験の何が将来につながってくるか、わからない。これは後輩に伝えたいこと。

最後となるが、勤務校は現在、南多摩中等教育学校と同じくＷＷＬ（ワールド・ワイド・ラーニング）の指定を受けている。人生ひょんなところでつながってくる。これも後輩に伝えたいこと。

話題の人

羽村市に初の女性副市長誕生！

横川楳子先生に御奉告したいと思いました

昭和 44 年卒　井上 務

就任直後の小林副市長（昭和53年卒）を訪ねました。

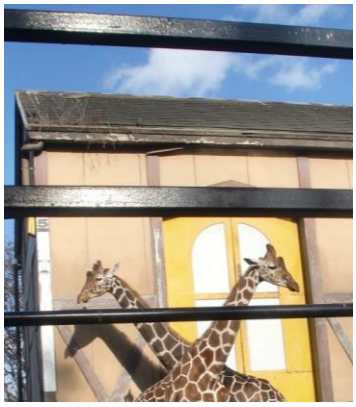
写真①　左：井上　右：小林さん

広々とした副市長室にぴったりな雰囲気の実に物腰柔らかな同窓の友に歓迎していただきました。会報「みなみたま」と記念誌「湧水万古」をテーブルに広げ、しばし歓談させて頂きました

写真②　創立 100 周年記念誌「湧水万古」を広げて歓談

ご存知の方も多いと思いますが羽村市には市営の動物公園があります。いつも小さなお子さんが溢れている人気の公園です。羽村市がまだ羽村町だった昭和 53 年に全国初の町営動物公園として開園。その昭和 53 年、母校を卒業された若き小林さんは全国初の動物公園を開園するような勢いのある羽村町の職員になりました。

月日は流れ、羽村市初の女性副市長に就任されました。今回、小林副市長とお会いするにあたって仲介してくださった羽村在住の旧友は「この人しかいない！という素晴らしい方です」と評しておりました。同窓の一人として誇らしい思いになりました。



写真③　羽村市動物公園

ところで、女子教育に尽くされた創立者・横川楳子先生は嘉永６年生まれ。西暦だと嘉永６年は 1853 年、たまたまでしょうが不思議にも「53」という数字が見えます。羽村市初の女性副市長の誕生を 1853 年生まれの楳子先生が喜んで下さっていると確信します。

「男女共同参画社会」という言葉を「男女共同△社会」と表現されている方がいました。〇でも◎でもなくてまだまだ△。女性副市長が珍しくない社会の魁としての活躍に期待しつつ副市長室を辞しました。

その際にお願いしておいた原稿は期日前にきちんと届きました。公務も同じようにきちんとこなしているのだろうな！と感じました。早速拝見、文中には母校プールの底から水泳部員だった小林少女が遠い昔に観ていた景色についてのユニークな記述等が綴られていました。楽しい内容です。自らの青春時代と重ねながら読んで頂けたら･･･と思いつつ拙文を添えさせて頂きました。

南多摩の想い出

南多摩高校の思い出

昭和 53 年卒　小林（旧姓 池和田）宏子

私は今、羽村市役所で仕事をしています。市の面積は、9.9平方キロメートルとコンパクトで、市内の約６割が区画整理で整備され、多摩川が流れ、羽村堰からの取水で玉川上水の起点になっています。草花丘陵を眺めることができ、便利さと、自然が程よく調和しています。子育てにはとても良い環境です。水道水は地下水100パーセントのとてもおいしい水です。

小林さん

南高在学中、私は決して良い生徒ではありませんでした。この会報に寄稿されている皆様が、立派な方ばかりなので、こんな私が紙面をいただくのは大変恐縮です。

南高では、本当に自由に、何も考えず、楽しく日々過ごしていたというのが思い出の全容になります。

それでも１年生から２年生にかけて部活は水泳部に所属していました。まだまだとても水温が冷たい時期からプールに入っていましたが、夏にはすれ違う人が振り向くほど真っ黒に日焼けしていました。水泳の授業のタイムを見た水泳部の顧問に勧誘され、泳ぐことは嫌いではなかったので、水泳部に入りましたが、ブレスト（平泳ぎ）が苦手で、さらにとうとう最後まで、うまくバタフライで泳ぐことはできませんでした。

まだ、だれも来ていない少し早い時間にプールに入り、肺の中の空気をゆっくり吐きながら沈んでいき、水の底に座って水面を見上げ、ゆらゆらゆれる空を眺めるのが好きでした。練習のウォーミングアップでゆっくりと2,000メートル泳ぐのも好きでした。

この水泳部でのある行動が、当時学校で物議をかもしていたことを、卒業から数十年経ったころに知ることとなりました。クラス会で同じクラスだった同級生から「おまえ、部活の顧問辞めさせただろ、もう一人の顧問から、あいつを何とかしろって言われたんだぞ」と言われました。それから数年後のクラス会で、当時の担任の先生からも同じことを言われました。さらに、今年になって、あの時、体育教官室に偶然居合わせたという同級生から「あの時はびっくりしたよ、すごい勢いで談判してたから。」と言われました。

水泳の大会会場で、ウォーミングアップ中に隣のコースを泳いでいた他校の生徒に対して、その顧問の先生が練習を邪魔するような言動をしていたのです。恥ずかしかったし、許せなかったので、後日、他の部員と一緒に、もう一人の顧問の先生に「あの顧問を辞めさせてください。」と詰め寄ったのです。その顧問は辞めてしまいました。たぶん怒って。

実に生意気で、失礼でした。この場をお借りして、当時、ご迷惑をおかけした関係各位にお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。

就職するまでは縁のなかった羽村には結婚を機に住み始め、子育ても終わり、そして今年８月からは思いもよらず、羽村市の副市長に就任しています。私と羽村を繋いだのは、南多摩高校３年７組の教室の壁に貼ってあった職員募集の案内でした。

卒業アルバムから（後列右端が南高時代の小林さん）

南高での自由な学校生活は、今日風に言えば自己肯定感を持つことができるようになった転機となりました。

これまで長い間仕事をしてきた中では、例え小さなことでも前例や根拠の乏しい決まりごとに縛られていることに疑問を持ち、それを変えたいと行動してきたように思います。日頃市役所の職員たちには「現状を変えてもいいし、変えられるんだよ」と言っています。「現状にとらわれないで」と。

高校生の頃

昭和 55 年卒業　高取（旧姓 黒田）早苗

校舎

私は昭和52年4月南多摩高校に入学しました。正門は今の場所ではなく高校前の歩道橋のそばにあり、正門を入って左側に体育館、正面に三階の校舎で右に曲がると木造の校舎があり、小学校１年生以来の木造校舎は何故か懐かしく思ったのを覚えています。上履きはサンダルなのは初めてで、冬にしもやけになったのも初めてでした。入学当初は私服でしたが２年生になったら制服になりました。部活は何にしようかと考えていたところ、同じクラスで仲良くなった友達は中学から剣道をやっていてその子に誘われ、部活の見学をして「やってみようかな…」と心が動きました。私は中学では軟式テニス部でしたので高校でも軟式テニスにしようかと思っていました。竹刀の持ち方振り方、摺り足、剣道初心者の私は何もかもが初めてで、素振りが出来るようになってから防具を着けての練習が始まりました。しんどかった練習は筋トレと円陣です。筋トレは壁に向かい両手を前にしてスクワットをする。「壁雑巾」、壁に寄りかかり椅子に座って居るようにする「空気椅子」これを数分で何セットか行った日の帰りの駅の階段は足がプルプル震えました。そして円陣掛かり稽古は数人で円陣を囲み、中の一人と外側の人とが掛稽古をして中の人は全員回れば終了です。テニス部で走ったりスクワットをしていましたけれども、防具を着けての円陣は大変でした。足の裏には豆が出来、体育館の床のコンディションが悪く棘が刺さったりして、練習場所が体育館の壇上だった時には下に落ちないように気を付けていました。面をつける際には手拭いを頭に巻きますが、額の汗は何とかなっても顔からも汗は出てきて目に入ったりかゆくなったりして、そんな時には指の細い子に面の隙間から指でかいてもらいました。

剣道部の同期の集合写真

部活が休みの日には友達と八王子を街ブラ、当時の八王子は百貨店や商店街、喫茶店にゲームセンターなど何でもあり、洋服や雑貨や靴を見たり喫茶店でお茶をしたりと楽しみました。

街ブラしていた友人と（中央が筆者）

私は初段取得しましが２段・３段を取得した人もいて、今も剣道を続けている先輩もいます。

高校生の頃嫌なこと悲しかったこと沢山あったでしょうけど、それらは今は思い出しても「そんなこともあったかな」くらいで、楽しかった事のほうがより鮮明に思い出されます。OB・OG会を開催していましたが今は開けていませんし街ブラしていた友達にも会えていないので、コロナ渦の不自由な日々が少しでも早くそれ以前の暮らしに戻ることを、卒業生・在校生の皆さんが健やかであり母校のご発展、ご活躍を願っております。

剣道部と私

昭和 55 年卒業　大槻（旧姓 小山）洋美

母校は、府立第四高女を卒業した母の、南多摩高校は六歳上の姉と私、親子の母校です

私の入学時は学校群制度により、南多摩・富士森・日野高校の中で志望順位を決めての受験でしたので、第一志望が叶ったのも、ご縁があったのでしょうか。「歴史のある学校はいいぞ。伝統のある学校を卒業して良かったと誇りに思う日が来る。」と勧めた父は嬉しかったのか、学校の発展を目指しPTA会長を務めたりしました。

剣道との出会いは、剣道着姿の叔母様に魅せられた友人に誘われたのがきっかけです。大きな掛け声が恥ずかしいと思いつつも入部を決めました。

部では主に一学年上の先輩方に指導を受け、体育館での稽古ですが、他の部との兼ね合いもあり、狭い舞台の上で行なう日もありました。夏は面の中は汗で顔の周りが湿っぽく、小手の皮部分には汗が染み、手の臭いを気にしていた事、冬は特に朝の稽古前に僅かな日差しを見つけては冷たい足を乗せていた事等懐かしく思い出されます。稽古は厳しい時もありましたが、剣道が好きになった私にとっては同期六人の女子と楽しく頑張り、部室で他愛のない会話に花を咲かせていた記憶が鮮明に思い出されます。帰宅後、素振りや踏み込みの練習をし、初心者でしたが在学中に二段を取得することができました。

部活で苦楽を共に経験したことの絆は強く今暫くは叶いませんが、OB会では同期は勿論のこと先輩方との会話も一気に時が縮まり当時の話題で笑い、気兼ねなく楽しい時をすごしています。

昨年還暦を迎え、大学とその後数年以降、剣道からは離れてしまいましたが、剣道を通して、自分の中に支えとなる軸を得た気がします。困難は必ず実のある未来に繋がると捉え、前を向いて歩きたいと思います。

コロナ禍が続きますが、伝統ある母校の、益々のご発展を心よりお祈り致します。

歴史発見

青天を衝け➡徳川慶喜➡三浦朱門・曽野綾子と第四高女
（連想ゲームのように➡でつながる母校に関するお話し）

昭和 44 年卒　井上　務

前回のＮＨＫ大河ドラマの主人公は「渋沢栄一」。ただ、ドラマの中に時々登場する北大路欣也扮する「徳川家康」と草彅剛演じる「徳川慶喜」はドラマをかなり面白くしたと感じました。

「あかね会」の皆様の多くは既にご存知の方も多いとは思いますが司馬遼太郎の「街道をゆく」（甲州街道長州路ほか）の中で「徳川慶喜」に関する記述の多くの部分に我が同窓生が登場しています。

もしかすると若い「あかね会」メンバーの中には知らない方もいるのでは？と老婆心ならぬ老”爺”心を発揮してみました。

以下に同窓の先輩が「街道をゆく」で取り上げられている箇所の一部を紹介いたします。

★「Ｋさんは八王子の旧制女学校の初年級のとき徳川慶喜につよい関心を持ち、慶喜を調べるというただひとつの目的のために東京女子大国史科に入った。生家は八王子でながくつづいた履物の老舗で･･･」

★「Ｋさんは河合重子さんという。河合さんのお店は八日町の目抜きどおりにある･･･」

「河合さんの慶喜はいつごろからでしょう」ときくと、まっすぐに私を見つめて「この町の女学校の一年生のときからです」といった。つまり小学校を了えたばかりの齢である。

★この町の女学校　つまり東京府立第四高等女学校で学芸会があり、上級生たちが真山青果の「将軍江戸を去る」を演じた。数えて十四歳の河合さんは、きっと小柄なからだに大きめの制服をきて、髪のゆたかなオカ

ッパ頭だったろう。一年生だったから、観客席にいた。
★慶喜を演じた上級生は張りのある美しい声でセリフを言い、慶喜そのひとになってしまって泣きながら演じていたのを見て（慶喜とは、どういうひとなのだろう）と、身がふるえるような思いで、その上級生の慶喜をみつづけ、きっと本当の慶喜もこんな澄んだよく通る声をもち、大慈院ではこのように泣いて暮らされたのであろうと思ったという。」･･･

抜粋はこの辺で終わりにいたします。ご興味が湧いた方は「街道をゆく」を手にしてみてください。

次にご紹介したい「第四高女」が登場する作品は三浦朱門著「武蔵野ものがたり」（集英社新書、2000年発行）です。著者の三浦朱門氏とご主人が同窓（現：立川高校、旧：二中）で奥様は南多摩卒という方から「武蔵野ものがたり」の存在を教えて頂きました。

「武蔵野ものがたり」の「はじめに」には『国木田独歩が「武蔵野」を書いたのは、今から百年以上も前である』とあります。百年を越えた我が母校の歴史と同じように百年以上の時間が武蔵野をどのように変化させたのか？が描かれたた作品です。

以下に第四高女が登場する部分の一部を抜粋いたします。

☆中学二年の秋、登校の途中、電車が武蔵境の駅に止まったら、かつての姉の同級生が乗ってきた。･･･中略･･･彼女は八王子の府立第四高等女学校（現在の南多摩高校）の生徒だった。･･･中略･･･彼女は頭がよく美しい人だった･･･中略･･･良妻賢母をよしとする府立の女学校からすると、場違いな生徒であったろう･･･
☆身体の弱い息子さんの将来を心配された立川の旧家の父親が高尾山薬王院に月に一度参詣（要旨）その後に「その道すがら、通学の市電を待つ府立第四高女の制服を着た美少女をみつける。何度か会ううちに、彼はその少女を是非とも息子の嫁にと考えるようになり、家をつきとめ近所でその娘の評判を聞き、決心を固め、娘の家にのりこんで、「是非、お宅のお嬢さんを倅の嫁に」と申し込み、当人同士は会ったこともないうちに縁談は進められた。･･･」（井上コメント：今だと問題行動かも？）。

この文章の後には、「家業から社会活動まで幅広く活躍して、敗戦後に立川市議会議長になった、小川良の談話によると、･･･」と第四高女卒業生を紹介する記述。更に「毎日新聞の女性記者で、長身で明るい美女がいた。彼女は府立第四の卒業生であった」に続けて「その話、聞いたことがある。もう、皆、すごく反撥して、絶対、二中の卒業生とは結婚するもんか、と思ったもんだわ。」と、二中と第四の卒業生が結ばれるという話を痛快に否定する発言も紹介されている。

200ページほどの新書の中に頻出する「府立第四」。文化庁長官、文化功労者等々の輝かしい経歴の三浦朱門氏にとって我が母校はとても気になる女学校だったようです。その今は亡き三浦朱門氏の奥様は曾野綾子さんです。

広報「みなみたま」に何度か登場されている西川知恵子さん（昭和23年4年修了）は大学時代に曾野綾子さんと同期。今でも交流が続いており、曽野さんの作品の中に西川さんは度々登場されています。曽野さんのご自宅で存命中の三浦朱門氏を交えての会話の中にはもちろん「第四高女」がしばしば話題になったそうです。

ちょっと道草

「武蔵野」を書いた国木田独歩に「日の出」という作品があります。校訓「日の出を見よ」の指針を胸に抱き、母校と創立者を誇りに思って生きて来た明治の青年の話しが綴られています。新進気鋭の青年は私立の小学校しか出ていなかったのですが、なみいるエリートを前に堂々と母校と創立者を宣揚するシーンが印象的な作品です。

ところで、学閥を「学×」と表現された方がいますが、第四、南多摩の我ら同窓の一人一人が築いてきた人材山脈は学○、否、学◎でありたいと思います。「日の出」という作品、最近は便利なネット検索で読めます。

最後に、大河ドラマをチョット真面目に見たきっかけは、定年後に関わったNPOの理事長さんが渋沢栄一の曾孫さんだったからです。曾孫さんとのツーショット写真を小さく掲載して終わります。

地図で見る八王子の地形と歴史

昭和 44 年卒　菱山 剛秀

市街地の地形

南多摩の校歌は「湧水は街をめぐり」で始まる。

現在の八王子の市街地を探しても、そのような景色はどこにも見つからない。学校の周辺も住宅が建ち並び、湧水から出た水が流れているような小川は見当たらない。

しかし、八王子の地形をよく見ると、学校の周辺は市街地中心部から一段下がった低い位置にあることがわかる。学校の前の甲州街道を西に向かうと、京王八王子駅からの道との交差点の先が上り坂になるが、この坂は台地と低地の境界となる段丘崖である。

八王子の市街地中心部は、高低差は小さいが、西方の山地から洪水によって流出した土砂が堆積した扇状地を、浅川の流れが浸食してできた浸食段丘の上にある。

市街地が乗るこの段丘は、一見すると平らに見えるが、扇状地の特徴がよく残っており、山地に近い西から東に向かってなだらかに傾斜している。さらによく見ると、この段丘を東西に横切る甲州街道が扇状地の尾根にあたり、そこから両側が緩やかに低くなっているのがわかる。

甲州街道の東の端の市守神社には、標高 109.8m、西の追分交差点には標高 127.3m の水準点があるから、この間の比高差は 17.5m、距離は約 2 kmなので、1000 分の 9（10m の移動で 9 cm上下）の傾斜があることがわかる。

市街地の商店の間口の高さを西と東で比較すると煉瓦の厚さ 1 つ分くらいの差があることに気が付くだろう。

住宅の場合は、土台を高くしてしまうのでこの程度の差は気が付かないが、店舗は入口を路面と同じ高さにしているから、入口の両側の土台に煉瓦が使われていると高さの違いが積まれた煉瓦の数に現れる。

学校周辺の地形

浅川の流れによって削られた扇状地の末端は浸食崖となり、扇状地の地下を流れる伏流水が崖で流路を断たれ、湧水となって地表に現れる。現在は湧水池が埋められ水路も上部を塞がれて多くが暗渠となっている。学校の前の歩道もかつては水路だったが、現在は暗渠になって歩道の下を流れている。

校歌が作詞された当時は、浸食崖沿いにいくつもの湧水があり、そこから流れ出た水が小川となって学校や周辺の田を潤していたのだろう。

前身の府立第四高等女学校が創立した少し前の明治 39 年の地図には、小川沿いに水車の記号が描かれている。

この地図に描かれている水路を現在の地図上で歩いてみると、今も地下に水路が残っている場所を見つけることができるはずである。地下の水路は下水道の雨水渠になっていることが多く、マンホールに「うすいきょ」と表示されている。この辺りの雨水渠は、かつての小川や水路だった可能性が高い。

八王子の平地部は、もともと扇状地だったため、地表面に水がなく、水田が作れなかったから湧水が巡るこの辺りの低地は、稲作ができる貴重な場所であった。

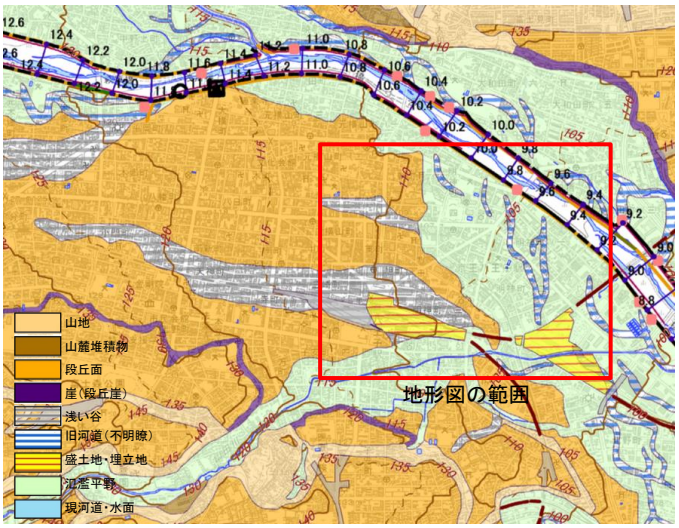
その反面、低地は水害に弱く、浅川が氾濫すると浸水による作物の被害は大きかったはずである。

自然との共生

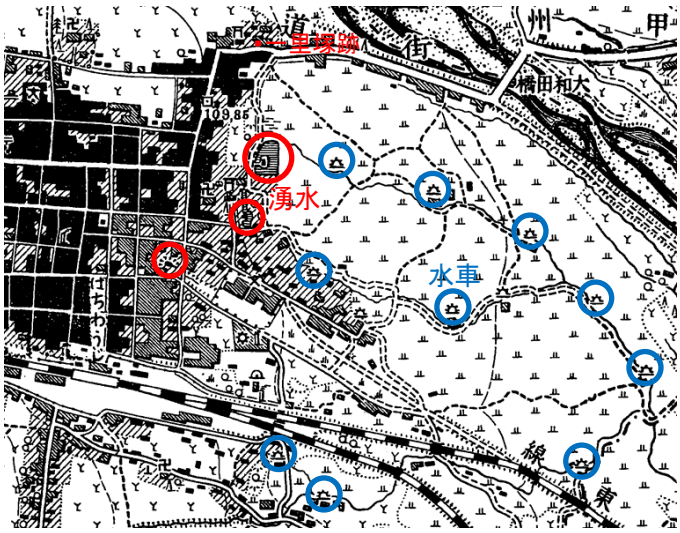
火山の近くは、美しい景色と温泉を、海岸の近くは、新鮮な魚や海藻などの海の幸をと、自然は私たちに恵みを与えてくれるが、その一方で、火山噴火による降灰や火砕流による火災や土砂災害、地震による津波や台風による高波などの災害に見舞われる可能性がある。

同様に、水田の適地は、地盤が軟弱で地震のゆれが増幅されたり、洪水時には、浸水の危険性が高いことを忘れてはならない。

自然とともに生きなければならなかった時代の人々は、こうした自然を利用しつつ、人間の手の及ばない災害に遇わないよう、自然への畏敬を祭りや神社に捧げていた。多くの神社が高台にあるゆえんであろう。



1/25000 治水地形分類図　（地理院地図）



明治 39 年測量 1/20000 地形図　（国土地理院）

縄文時代の遺跡

八王子は、縄文時代の遺跡が少なくない。

縄文時代の遺跡は、自然の地形を利用して安全で暮らしやすい場所が選ばれている。

安全という観点では、洪水による浸水の危険性が少なく、動物などの外敵から身を守りやすいこと。暮らしやすいという観点では、水や食料が得やすいことが重要であったと考えられる。これらの条件を満たす場所が、台地の縁（へり）である。台地の中央部は、洪水で浸水の虞はないが、水が得にくい。そこで、台地と低地の境で水が得やすい縁の部分に集落が造られた。台地の縁は、水以外にも、隣接する低地を流れる川の恵みも得やすい場所である。また、狼や大型の動物に襲われる危険に対しても段丘の崖が守りを助けてくれる。

八王子は現在の市街地の周辺に高い段丘が分布しており、段丘の縁には縄文時代の遺跡が多く発見されている。

弥生～古墳時代の遺跡

こうした地形は、弥生時代以降も利用され続け、東部の台地では、縄文時代の遺跡に弥生時代から古墳隋代の遺跡が併存して発見されることも少なくない。弥生時代や古墳時代の集落跡近くでは、有力者の墓と考えられる方形周溝墓や古墳の存在も知られている。

一方、弥生時代になると、水が得やすく、水田が作れる低地にも集落が造られるようになる。洪水の危険性はあるが、安定した食料を確保することが必要になったのであろう。低地の集落は、低地の中でも周囲よりわずかに高い場所を選んで造られている。

遺跡の分布を見ても、八王子は自然環境に恵まれ、古代から人々が住み着き、弥生時代以降は、集落をまとめる有力者が現れていたことがわかる。

奈良時代になると、八王子にも中央政権の影響がおよび、丘陵の斜面を利用して武蔵国分寺造営のための瓦を焼いた窯の跡も発見されている。丘陵地帯に分布する古墳は、形式から奈良時代ものと考えられるものもある。

平安時代末期には、武蔵七党と呼ばれる豪族の一つ、横山党が八王子に根拠地を置き、中央政権との関係も強まったようである。横山党の根拠地だったとされる碑が市内の八雲神社境内に建立されている。

鎌倉時代から戦国時代には、八王子市内にも山城が造られるようになる。片倉城址、高月城址、滝山城址、八王子城址などは、今も山城の遺構がよく遺っている。

鎌倉時代には、幕府と横山氏との関係が強まり、鎌倉に通じる道（鎌倉道）が整備され、戦国時代には、北条氏の拠点であった小田原へ通じる道（小田原道）も整備された。今もそのルートの一部を辿ることができる。

江戸時代の痕跡

現在の八王子の市街地は、豊臣秀吉の軍勢による攻撃で八王子城が落城した後に、城下にあった横山、八日、八幡の市（いち）を移設するとともに、徳川家康が江戸の守りの西の拠点として代官を置いたことにより、新しく造られた町である。

江戸時代中期（元禄時代）の絵図が残っているが、町割り（道の骨格）は、現在に引き継がれている。

絵図を見ると、甲州街道沿いには住民の屋敷が並び、その外側に代官屋敷が配置されている。甲州街道の南側の代官屋敷が並ぶ西の端（小門町）には、代官頭の陣屋が置かれ、陣屋は西と南北の敷地の境には土塁が築かれ、平城のような造りになっていた。

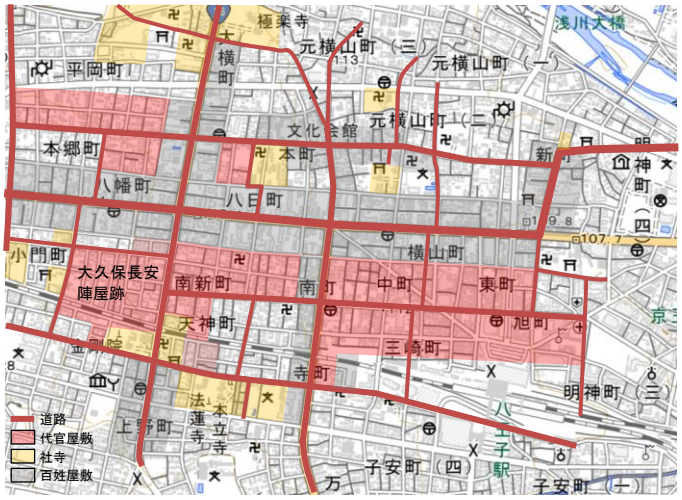
また、現在の市内の寺院のほとんどが元禄時代の地図にも描かれており、寺の配置は江戸時代から大きく変わっていない。幕末に描かれた市街地の絵図（八王子名勝誌）からは、現在も残る商店の名が確認できる。

明治から大正時代の痕跡

江戸時代から明治時代になって大きく変わったのは、鉄道であろう。現在のＪＲ中央線が、明治22年に民営の甲武鉄道として新宿から八王子まで開通し、明治38年には官営となって西に延長された。これにともない、駅の位置も開通時の場所から現在の線路沿いに移動した。

さらに、輸出用の生糸を横浜に運ぶため、明治41年に横浜線が開通し、大正14年には関東地方北部の生糸を集積するため、八高線が開通した。第四高女創立当時の明治時代の八王子は、輸出向けの生糸の集積地となり、さらに、市街地周辺は養蚕用の桑畑が広がり、製糸工場もできて生糸の生産地ともなって大きな繁栄を遂げていた。

主な遺跡の分布（地理院地図に加筆）



江戸時代初期の町割り（地理院地図に加筆）

同窓会の活動及び母校支援について

◆令和３年度「あかね会総会」は中止に

毎年5月の第3日曜日に開催している「あかね会定期総会」は、5月16日(日)に開催する予定でしたが、「新型コロナウィルス」の第4波の蔓延により、令和３年度の開催は令和2年から2年続きで中止となりました。

総会終了後に実施している恒例の講演会は、和田智竹氏（平成23年卒業）に、「南極で暮らす知られざる生物」をテーマにお話しいただく予定でいましたが、これも誠に残念ながら、2年続きで中止となりました。

この定期総会に代えて、あかね会常任委員の皆様に、令和3年度の総会議案を送付して、返信ハガキでご承諾いただくこととしました。5月12日に77名の常任委員に送付し、5月25日までに回答をお願いしたところ、53名（69%）の方から返信があり、返信のあった全ての方のご承認をいただきましたので以下のとおり報告します。

令和２年度 あかね会予算　収支報告

一般会計の令和2年度決算（収入）は、会費が30万円(予算額70万円)、会員寄付が125.7万円（同124万円）、雑収入が8.7万円（同1千円）の計164万円に繰越金2,124.8万円を加え、総額2,289万円となりました。

また、一般会計の令和2年度決算（支出）は、総会・行事費は執行がなく(予算額55万円)、常任委員会費11.1万円（同13万円）、広報費243.3万円（同270万円）、母校支援費63.9万円（同105万円）、慶弔費は執行がなく（同3万円）で、計318万円となり、繰越金は1,971万円になりました。

令和３年度 あかね会予算

令和3年4月1日から令和4年3月31日

収入の部

科目		２年度	３年度	増減
収入総額		23,628,831	22,019,182	-1,609,649
1	前年度繰越金	21,247,831	19,708,182	-1,539,649
2	会費	700,000	700,000	0
3	会員寄付	1,240,000	1,280,000	40,000
4	行事参加費	440,000	330,000	-110,000
5	雑収入	1,000	1,000	0

支出の部

科目		２年度	３年度	増減
支出総額		23,628,831	22,019,182	-1,609,649
1	総会･行事費	550,000	430,000	-120,000
2	役員会･常任委員会費	130,000	170,000	40,000
3	広報発行費	2,700,000	2,450,000	-250,000
4	母校支援事業費	1,050,000	1,050,000	0
5	慶弔費	30,000	30,000	0
6	予備費	19,168,831	17,889,182	-1,279,649

以上のように、令和3年度の予算の収入額は前年予算と同程度と見込み、支出見込額は、総会・行事費43万円、常任委員会費17万円、広報費245万円、母校支援費105万円、慶弔費3万円の計413万円に予備費1,789万円を加え、総額2,202万円を計上しています。

昨年は、役員の改選時期となり、会長が堀竹充（昭和48年卒業）となり、副会長、庶務に新任委員が加わりました。

なお、同窓会の運営について、「役員の皆様には母校のためご尽力いただき感謝します。特に、小林会長には長い間お世話になりました」「コロナ禍が1日も早く収まり、皆様にお会いできることを楽しみにしています」「6期生の入会者が60人と聞き驚いています。学校教職員との連携が必要です」などのコメントがありました。

◆令和３年度第１回あかね会役員会の開催

コロナ禍の国内感染者は、5月8日に7,244人と増加するなか、6月19日(土)にあかね会役員会が14名の参加のもと、母校・西棟2階の理科講義室で開催されました。この日は第1回の常任委員会の開催予定の日でしたが、参加者が多人数になることから、常任委員会を見送り役員会を開催する運びとなりました。

母校の小泉副校長先生から、「生徒にコロナ感染はなく、1/3が自宅学習、2/3が登校学習だが、体育祭が学年ごとの開催となるなど、少しずつ日常に戻りつつある。オリンピック開催で、太鼓部の演奏、なぎなた部の演武が予定され、同窓会寄贈のタブレットも役立っている。」などの報告がありました。

前回委員会以降の報告事項として、令和3年度の会報（20頁）が4月末に16,700人の会員に送付されたこと、総会議案を常任委員に送付し、53人の承認（承認率69%）があったことなどの説明だありました。

協議事項については、高尾山納涼会が、コロナ禍の中で会食や会合を避ける観点から令和3年度も見送ることとし、今後の開催可否も引き続き検討することになりました。また、9月初めの「南魂祭」が一般公開なしの学校行事として実施されることになったため、例年実施してきた同窓会の参加は取り止めとなりました。

以上について、常任委員に通知するとともに、ホームページに行事中止の記事を掲載することとしました。

次回は、11月に常任委員会か役員会を開催し、新年会等の開催について検討することとしました。

◆第１回あかね会常任委員会の開催

新型コロナウィルスの第5波の感染が収束を見せるなか、11月13日(土)に1年半ぶりの常任委員会が17名の参加のもと、母校で開催されました。

久々に出席された永森校長先生から、「9月以降コロナ感染者が激減し、学年単位の体育祭、オンラインで非

公開の文化祭の２つを実施し、生徒は明るくなっている。朝日新聞が『探求学習』を取り上げてくれて、ドイツの公共放送でも放映された」と話された。また、小泉副校長先生から、「太鼓部が都大会で優勝し、南多摩フィルが銀賞を受賞した。」と報告がありました。

報告事項として、①令和３年度の会報は16,700人の会員に送付された　②総会議案書を常任委員に送付し、53人から承認（承認率69％）された　③高尾山納涼会の開催は、コロナ禍の中で本年度も見送り、開催可否も引き続き検討する　④「南魂祭」への参加は、一般公開なしの取り扱いで実施され、参加は取り止めになった　⑤母校の支援計画は例年どおり実施予定する　⑥同窓会入会案内を9月に生徒向け、10月に保護者向けに実施した　⑦学校支援協力金は10月現在180万円収納した　と説明がありました。

第１回常任委員会の開催

協議事項として、あかね会新年会の開催の提案があり、コロナ禍が落ち着いている前提で1月22日(土)に八王子エルシーにおいて開催することとしました。また、令和4年度あかね会会報「みなみたま」について学校側に学校の現況、卒業生進路等の執筆依頼を行うとともに、広告掲載は庶務から広告掲載の依頼・申込書を対象者に送付して申込受付けを行うこととしました。会報は、4月下旬に17,000部の発行を予定することが決まりました。

◆あかね会新年会の開催中止

あかね会では、会員との交流を深めるため、令和4年1月22日(土)に2年ぶりの「新年会」を開催する予定でしたが、1月の第6波の新型コロナウィルスの感染者数が、都内で1月5日に390人、1月6日に641人と急増し、全国的にもまん延防止等重点措置が発令されるなど、オミクロン株の急激な拡大が見込まれたため、予定していた「新年会」を中止せざるを得なくなりました。

参加予定の会員の方には、会員間の交流を楽しみにされていた方もいましたが、事情を説明してご理解いただきました。

◆第２回あかね会役員会の開催

第６波の新型コロナ感染症が全国で10万人を越えた２月初めから、ようやく落ち着きかけた令和４年２月27日(日)に、令和３年度第２回目の役員会を開催しました。

出席者は10名以内としましたが、母校への支援状況、会報「みなみたま」の広告募集の確認のほか、会報の経費見込み、原稿の進捗状況の確認、令和4年度の定期総会の進め方について協議を行いました。

広告募集は、24社の広告確保に向けた取り組みを行い、会報は4月下旬の発行に向けて原稿の取りまとめと調整を行うこととなりました。また、総会は3年ぶりの開催に向けて、会場の確保、講演会、懇親会の実施に取り組むこととなりました。久々に会員の交流・親睦を深める機会が図れることに、熱い期待が寄せられました。

◆令和３年度のあかね会活動状況

令和3年度のあかね会活動は、上述のとおり、新型コロナウィルスの感染拡大防止を考慮し、5月の総会を中止し、その後も新型コロナウィルスの感染拡大状況を注視しつつ、役員会、常任委員会を開催して予定していた行事の開催を検討して活動を進めました。

あかね会常任委員会開催状況

回	議　題　等
総会議案の送付 ５月 12 日	○総会の中止と議案承認依頼 ○令和２年度事業実績・決算 ○令和３年度事業計画・予算 ○役員改選（案）
総会議案の承認 ５月 25 日	○議案送付数　77 件 ○議案承認数　53 件 ○議案承認率　69％
第１回役員会 ６月 19 日	○あかね会会報の発行 ○総会議案の承認状況 ○納涼会・南魂祭参加の中止
第１回 常任委員会 11 月 13 日	○報告事項　７件 ○あかね会新年会の開催 ○令和４年度の会報発行計画
第２回役員会 ２月 27 日	○あかね会新年会の開催中止 ○令和４年度会報発行・広告依頼 ○令和４年度総会の準備

◆会員名簿を有償頒布しています

あかね会は、会員相互の親睦・研修と母校の支援活動の充実に努めています。同窓生のつながりを確かなものとするため、2018年2月初旬に、あかね会「会員名簿」を10年ぶりに発行しました。

発行は、実績と信頼のある業者に調査・作成を依頼し、約1500名の方々にご購入いただきました。会員名簿を、同期会やクラス会開催の折にぜひご活用いただければ幸いです。

なお、会員名簿に若干の残部があります。会員で入手を希望される方には有償（送料込4,600円）で頒布しますので、担当までご連絡ください。

⇒連絡先　　溝口　猛【電話】090-6489-5939

創価大（壁面）

港区立芝浦小（床と階段）

ミャンマーチーク販売　株式会社
〒160-0023　新宿区西新宿3-8-4　BABAビル1F
http：//www.myanmar.co.jp　☎03-5333-3055
代表取締役　臼井成美　取締役　臼井実千恵（旧姓 岡村／昭和46年卒）

学校法人 片柳学園
理事 黒須隆一【昭和35年卒】
東京工科大学
日本工学院専門学校　日本工学院八王子専門学校
日本工学院北海道専門学校　東京工科大学附属日本語学校
www.katayanagi.ac.jp

有限会社 保寿産業
代表取締役　小川 禎子（昭和 31 年卒）
〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32
TEL：042-526-2646　FAX：042-629-7500

株式会社 市川工業所
専務取締役　野澤 経子（旧姓 市川）（昭和 55 年卒）
〒192-0065 八王子市新町8-4
TEL：042-642-4808　FAX：042-642-6829

法あるところに救済あり！
司法書士・行政書士 空衣（そらい）事務所
相続登記はお早めに！
代表 入沢 修自(平成5年卒)
〒206-0011 東京都多摩市関戸4－23－1 関戸ビル301
電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755
http://www.sorai-law.com

TKC. KFS 推進事務所
税理士法人 西東京会計
代表社員　加藤　晃(昭和38年卒)
〒192-0032 東京都八王子市石川町 733-4
TEL:042-644-1771　FAX:042-645-7372
http://www.tkcnf.com/ntk/

冷凍食品で楽しい給食（病院、施設の給食品専門問屋）
増田屋
株式会社 増田禎司商店
代表取締役 増田太郎／増田敦子(旧姓 土屋)(昭和34年卒)
〒193-0801 八王子市川口町 1415
TEL:042-654-2222　FAX:042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com
mail:info@masudaya1965.com

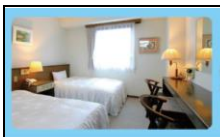
一級建築士事務所
株式会社 浜中企画
浜中 賢司（昭和44年卒）
〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話:042(654)4325　FAX:042(654)6128
mail:hamanaka@tokyo.email.ne.jp

NPO法人
八王子・台湾友好交流協会
理事長　黒須隆一
（昭和35年卒）
〒192-0046 八王子市明神町3-11-11-601
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

コンピュータソフト開発＆運用
（有）ライズ
代表取締役　中村 晋也(昭和53年卒)
〒192-0066 八王子市本町30-6（N-Twoビル3F）
電話:042-620-5425　FAX:042-689-4149

診療時間［午前］9:30～13:00［午後］15:00～19:00（土曜は18:00まで）
糠信歯科医院
院長　糠信 安宏(南多摩中等教育学校歯科校医)
糠信 和代(昭和29年卒)
八王子市明神町4-2-9 昴ハイツ2F(京王八王子駅西口出口前)
電話：042-642-3131〔休診日：木曜・日曜・祝祭日〕

損害保険、生命保険代理店
代理店を通じて皆様のネットワーク作りのお手伝いします。
有限会社 保険のイッツ
一宮 龍之
（旧姓 中川　昭和45年卒）
TEL：042-587-3808　FAX：042-587-3813
mail:y-its3808@viola.ocn.ne.jp



@ホーム宿　南多摩高校　平成３年卒業

ホテルベル鐘山

富士山リゾート＆ビジネス

【アットホーム宿　ホテルベル鐘山の３つのホッと♪】
1. スタッフの笑顔と温かいおもてなしにホッと♪
2. 美味しいご飯にホッと♪
3. バナジウム天然水で湯浴み☆お部屋でホッと♪

歌手 伊達めぐみ

Tel 0555-24-8888 山梨県富士吉田市上吉田東 9-8-10

(有)オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局　八王子市中野上町 5-14-1 TEL 042-622-9932

Sankyosha 刷新ing

お任せ下さい！印刷のすべて。

取締役副社長　野口　冨巳子（昭和35年卒）

有限会社 三共社

〒192-0041 東京都八王子市中野上町 2-29-1
TEL.(042) 625-8325　FAX.(042) 625-8369
http://www.san-p.co.jp

高級オリジナルニット
色彩の魔術師

齋藤都世子作品ルーム

浅野　常子（昭和34年卒）

〒192-0904 八王子市子安町3-32-10-106
☎・FAX：042(646)9833／090-1422-1192
https://www.saitoknit.com

伊藤税務会計事務所

税理士 伊藤　正啓
伊藤　幸子（昭和32年卒）

〒192-0045 八王子市大和田町３－６－21
TEL:(042)642-2719　FAX:(042)642-5034

医療法人社団　大島会

大島耳鼻咽喉科クリニック

院長 大島 清史／副院長　澁谷　正人
大島 富子（昭和25年卒）

〒192-0046 八王子市明神町 4－5－9
TEL：042-642-8012
http://www.oshima-ent.com

ISO 9001 認証取得
エコアクション 21 認証取得

黒須建設株式会社

代表取締役社長　黒 須 光 隆
取締役　黒 須 俊 輔（平成20年卒）

本社　〒192-0063　東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL　042-642-5331(代)　FAX　042-642-5314
http://www.kurosu-kensetsu.co.jp

世界遺産“日光”を戦火から救った石坂弥次右衛門義禮の眠る

曹洞禅宗　萬松山 興 岳 寺

土井　俊玄（昭和 29 年卒）

〒192-0835 八王子市千人町 1-2-8
TEL:042-661-5268　FAX:042-661-5357

●読経会(法話を含む)毎月第1土曜日午前10時より　●茶道教室(表千家流)毎月第3土曜部午後1時より
●写経会　毎月第3土曜日午前10時より　●煎茶道教室(清泉幽茗流)毎月第3土曜部午後1時より

食品プロの御用達市場

八王子総合卸売センター ㈱

取締役会長　佐藤 美千枝
（旧姓 勝田　昭和21年入）

〒192-0906 東京都八王子市北野町 584-30
TEL：042-645-6500

NAKANO
学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園

なかの幼稚園　そこは
子どもの世界です。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
http://www.nakano-kd.ed.jp/
理事長 中村　健(昭和 46 年卒)

（有）内田商店

フレッシュマート ウ チ ダ

取締役　内田 育男（昭和53年卒）

〒192-0063 八王子市元横山町3丁目　3－14
電話:042-642-1817　FAX:042-642-1815

同窓会会報「みなみたま」へ広告掲載のお願い

あかね会では、学校や同窓会に関する情報を会員に幅広くお知らせするために、 毎年4月末に同窓会会報『みなみたま』を会員の約15,000名及び在校生・教職員にお届けしています。

広告料は、母校の学校支援等に使用させていただいており、広告応募者には、会報に広告を掲載するとともに、同窓会のホームページ（https://www.akanekai.org/）にも1年間掲載します。

広告料金は、名刺サイズで、カラー1枠 が2万円、白黒1枠が1万円です。広告掲載は24枠限定で、申込先着順で24枠となった時点で締め切ります。

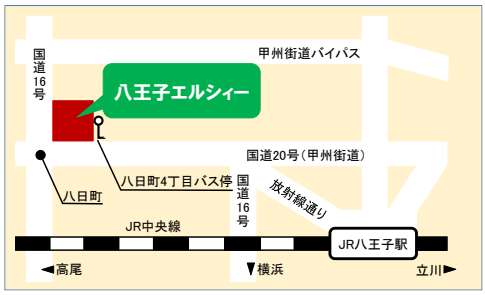
【連絡先】中村　晋也　電話：042（689）4149
mail：sinya@unto21.com

「令和4年度　南多摩同窓会あかね会　定期総会」について

南多摩同窓会あかね会は、毎年、5月の第3日曜日に八王子市内で定期総会を開催しています。（「南多摩同窓会あかね会」規約第7条）

毎年、定期総会に続き、卒業生などを講師とした講演会を開催し、そのあと新入会員の紹介、懇親会を開催します。定期総会は、現在の母校を知る機会であり、共に学んだ仲間との再会、先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。

なお、新型コロナウィルス感染症の感染拡大の状況により、総会を急きょ中止する場合があります（ホームページでお知らせ）ので、ご承知おき願います。



八日町交差点角（八日町４丁目バス停下車）

令和4年度　定期総会

【日時】令和4年5月15日（日）　11時～
会場受付　10時30分～
【場所】八王子エルシー【八王子駅　下車バス5分】
八王子市八日町6-7　☎042-623-2111
【懇親会費】5千円（学生2千円）
（会費は当日徴収します）

【プログラム】
総会　11時～11時40分
事業報告・決算、事業計画・予算
その他
講演会　11時50分～12時30分
講師：和田　智竹氏（平成23年卒業）
2018年11月～3月、南極地域観測隊に参加
演題:「南極で暮らす知られざる生物」
懇親会　12時40分～
昼食、懇談、新入会員の紹介等

【お願い】新型コロナ感染症対策のため、マスク着用、検温、消毒にご協力をお願いします。
【申込方法】常任委員を通じてお申し込みください。
又は、下記へ5月8日（土）までご連絡ください。
【メール】mail@akanekai.org
【電　話】　入沢　修自　☎080-5075-5570
溝口　　猛　☎090-6489-5939

「学校支援協力金」のお願い

会報「みなみたま」第13号の発行は、卒業生会員（約3万名）のうち物故者、消息不明の方を除いた1万5,500名の方にお送りしました。

「学校支援協力金」は、同窓会として在校生の学習、部活動、進路指導、卒業生への卒業証書フォルダーの提供などを積極的に支援するとともに、同窓会の活動の継続を目的に、卒業生の皆様にご協力をお願いするものです。

学校が中等教育学校となり、在校期間が6年間になり卒業生が1/2に減少したことに伴い、卒業時に納入いただく同窓会会費も半分に減少しています。1口千円で、なるべく2口以上のご協力をお願いします。

令和3年度から、協力金の払込みは、郵便局のほか、コンビニエンスストア（2千円の払込みに限ります）からもできますので、ご協力をよろしくお願いします。

ご協力は任意ですので、お志のある方は可能な範囲でご協力をよろしくお願いします。

住所変更の際には、同窓会にご一報ください

毎年、広報紙を発行すると、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、同窓会の名簿担当にご連絡ください。

【メール】meibo@akanekai.org
【郵　便】〒192-8562　八王子市明神町4-20-1
都立南多摩中等教育学校内　あかね会名簿担当あて

【編集後記】

コロナウィルスが変異しながら今年も猛威を振るい、３年前に始まったウィルスとの闘いは、今後も長期化が想定されている。ロシアがウクライナに侵攻し、進化した兵器による殺戮は世界を震撼させている。今も世界のどこかで続く戦争は、なくすことはできないのか。

温暖化による大規模な気候変動は、ウィルスや戦争にはおかまいなしに地球上の生命を脅かしはじめている。

こうした災禍はいずれも人類が生み出したものであり、その解決に、今こそ人類の真の英知が求められている。

南多摩の卒業生は、社会のさまざまな場所で活躍している。そんな先輩の姿を追い、さらに先を目指す在校生たちには、自ら考える力と直面する社会の変化に対応できる柔軟さを身に着けて巣立ってほしいと願う。（菱山）